

キャラクター名 ヴェイル	プレイヤー名
-----------------	--------

種族	ナイトメア	種族特徴	異貌、弱点[土、銀+2]		
生まれ	錬金術師	性別	男	年齢	28 (+1500年くらゐ)
冒険者Lv	13	経歴	裕福な家に生まれた		
経験点	1450		魔物を倒したことがある 告白されたことがある		

		能力値	A-F	成長	他修正	能力値	ボーナス	技能		Lv.	技能		Lv.
技	12	器用度	10	6		28 + 2	5	ファイター	13	アーティザン	11		
		敏捷度	12	22		46 + 2	8	プリースト/ル=ロウド	2				
体	8	筋力	4	6		18	3	フェアリーティマー	6				
		生命力	6	13		27	4	スカウト	3				
心	10	知力	12	18		40 + 4	7	エンハンサー	6				
		精神力	7	8		25	4	アルケミスト	5				

戦闘特技		能力値	備考
タフネス	2122p		p
バトルマスター	3143p		p
魔力撃	1B39p		p
魔器習熟A	AG43p		p
両手利き	1B32p		p
マルチアクション	1B39p		p
魔力撃強化	1B32p		p
魔器習熟S	AG43p		p
魔器の達人	AG43p		p
			p
			p

言語	会話	読文
交易共通語	○	○
魔動機文明語	○	○
妖精語	○	

練技/呪歌/騎芸/賦術		能力値	備考
ガゼルフット		能力値増強/+2	
アンチボディ		威力増強/+5	
メディテーション		威力超増強/+10	
ストロングブラッド		回避力超増強/+1	
ケンタウロスレッグ		浮遊盾	
スフィンクスノレッジ		C値増強/-1	
モラル		C値超増強/-1	
ヴォーパルウェポン		魔導即応	
パラライズミスト		回避極増強/+1	
クリティカルレイ			
パークメール			
グレイテストフォーチュン			
回避増強/+1			
追撃の魔力			

技能	基本 レベル	基本 命中力	基本 回避力	基本追加 ダメージ
ファイター	13	18	21	16
グラブラー	0			
フェンサー	0			
シューター	0			

鎧と盾	必要			
	ランク	筋力	回避力	防護点
鎧 アラミドコート		15	1	2
盾 アカシックバックラー		1	1	2
その他補正(防具習熟/回避行動 etc)				3
回避技能	ファイター	合計値	23	7

武器	用法	必要 筋力	命中 修正	命中力	C値	追加 ダメージ	威力	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
アカシックソード <small>最大C値:5 固有MP:20 呪印:【威力増強+5】【威力超増強+10】【連撃増強+1】【連撃威力+1】【連撃威力+1】</small>	1H	14		2d+ 18	10	19	29										
アカシックソード <small>上記と同内容、こちらの能力値はアクティブート済のもの</small>	1H	14		2d+ 18	8	19	45										
カードシューター				2d+ 0		0											
				2d+													
				2d+													
				2d+													
				2d+													
				2d+													

制限移動	通常移動	全力移動	回避	防護点	HP
3 _m	48 _m	144 _m	2d+ 23	7	78

魔物知識/弱点	先制力	生命抵抗	精神抵抗	MP
2d+ 0/X	2d+ 11	2d+ 17	2d+ 18	51

魔法技能	Lv.	魔力	魔法技能	Lv.	魔力
神聖魔法	2	9			
妖精魔法	6	13			

装備品		説明
頭	アーティザンハット/2	AC数:2 MP:10 呪印:【魔導即応】【魔導即応】
耳	華美なる宝石飾り	ランク8の宝石x6個装着済
顔	叡智の魔紋	
首	血水晶のチョーカー	
背中	ウェポンホルダー改	カードシューター配置
右手	アーティザンリング/3	最大C値:3 固有MP:15 呪印:【威力増強+2】【威力超増強+2】【威力超増強+2】
腰	多機能キチンベルト	
足	ディスプレイサーガジェット	
その他	聖印	ル=ロウド聖印

装備品		説明
左手	信念のリング	
	ブレードスカート	
		Dガジェ枠。

その他メモ	自動失敗 チェック
俺の家は魔法文明時代から続く魔工師の家柄だ。 魔器を生産し、呪印を教える……そうすることで俺の家は続いてきたらしい。 俺自信も魔器の扱いに長け、それを利用して蛮族どもの戦いに身を投じていた。 俺の戦う理由、それは家族……大切な妹を守るため。 俺が一人で多くの蛮族を倒せば、それだけで街の平和は守られる。だから俺は戦っていた。 ある日、家で飯を食べていたら、妹から大事な話があると云われた。 何かと思えば、俺が好きだと言ってきた。家族なんだから当たり前だと思っていたが、どうやら違うらしい。 俺のことを、男として好きだと。そう言われて困惑した。俺達は家族だ、そんなことは考えられない。 泣きじゃくる妹を宥めていたら——不意に、腹に熱さを感じた。これは、なんだ？ 見れば魔器のナイフが刺さっている。刺したのは誰だ？ いや、一人しかいない——目の前の、妹か。 俺と一緒に出来ないなら、殺してずっと一緒だと。そう言い放って、切り上げられた。	□□□□⑤ □□□□⑩ □□□□⑱ □□□□㉓ □□□□㉔ □□□□㉕

